



モンシロチョウの幼虫は、なぜキャベツが好きななの

チョウの幼虫の食べるえさは決まっている

チョウの幼虫が食べる植物の種類は、チョウの種類によって決まっています。それを食草といいます。モンシロチョウの幼虫である、青虫が大好きな食草は、キャベツです。でも、キャベツと同じアブラナ科の仲間の植物なら、たいてい食べます。ですから、コマツナ、アブラナ、ハクサイ、ダイコンの葉なども、あたえてみると食べるはずです。

なぜ、青虫はキャベツが好きなのかというと、生まれたときから、キャベツのにおいのするものが好きなようになってきているのです。さらに、青虫が、かみくだいたり、のみこんだりしたくなるものが、キャベツや、アブラナ科の植物の中にあるためといわれています。

モンシロチョウに近い仲間のスジグロシロチョウは、イヌガラシなどの野生のアブラナ科の植物を食草にしています。

チョウは、において食草を見分ける

チョウは、植物のにおいて食草を見分けているようです。成虫のチョウは、いろいろな花のみつや木のしるを吸いますが、卵を産むときは、生まれてくる幼虫が食べる食草を探して、その上に卵を産みます。種類によって、それぞれちがう食草を選ぶことで、同じ食べ物をとりあうことがなく、たくさんの種類のチョウが生きのびていけるのです。

絹をとるカイコは、クワの葉しか食べませんが、最近では、クワの葉のにおいがする、人工飼料で飼育しています。（監修・中山 周平）

